

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-88919

(P2010-88919A)

(43) 公開日 平成22年4月22日(2010.4.22)

(51) Int.Cl.

A61F 5/445 (2006.01)

F I

A61F 5/445

テーマコード (参考)

4C098

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2009-280286 (P2009-280286)	(71) 出願人	591000414
(22) 出願日	平成21年12月10日 (2009.12.10)		ホルスター・インコーポレイテッド
(62) 分割の表示	特願2003-583277 (P2003-583277) の分割		HOLLISTER INCORPORATED
原出願日	平成15年4月7日 (2003.4.7)		アメリカ合衆国、イリノイ州、リバティビル、ホルスター・ドライブ 2000
(31) 優先権主張番号	PA 2002 00529	(74) 代理人	100081422
(32) 優先日	平成14年4月10日 (2002.4.10)		弁理士 田中 光雄
(33) 優先権主張国	デンマーク (DK)	(74) 代理人	100101454
			弁理士 山田 卓二
		(74) 代理人	100088801
			弁理士 山本 宗雄
		(74) 代理人	100126789
			弁理士 後藤 裕子

最終頁に続く

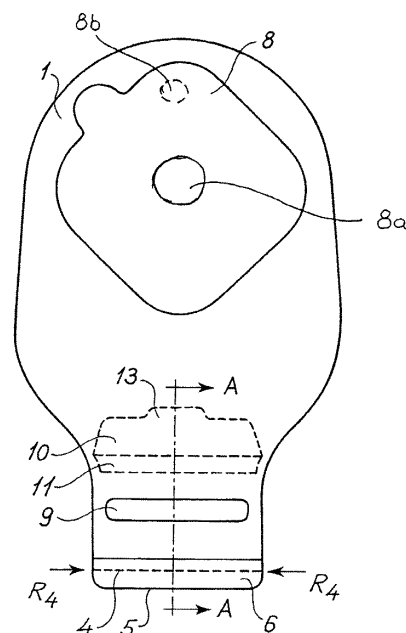
(54) 【発明の名称】 完全な閉鎖性を有するドレインオストミーパウチ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】ドレイン開口部とその周りの洗浄が容易で、巻き上げ時に皺に沿って漏れ通路の形成の危険がないドレインオストミーパウチを提供する。

【解決手段】開口部 8 a を通して人のストーマル排出を受けるキャビティを形成する互いにシールされた可撓性を有する第 1 および第 2 のシート材料の側壁 1、その縦方向に下方に延び、直角に延びるドレイン開口部 5 で終了する細長いドレイン部分を備え、比較的剛性を有する材料、PET、ナイロン、高密度ポリエチレンまたは低密度ポリエチレンの第 1 および第 2 の可撓性剛性ストリップ 6 がドレイン開口部 5 に近接しかつそれに沿って延び、側壁 1 の表面にヒートシールまたは接着することにより取付けられているドレイン性ストーマパウチであって、パウチが第 1 および第 2 の剛性ストリップを 3 回巻き上げられたコイルを保持するための側壁 1 にベルクロストリップ 9 およびフラップ 13 にベルクロストリップ 10 を有する。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

近位 (Proximal) 側の壁に存在する開口部を通して人のスーマル排出を受けるキャビティを形成するために互いにシールされた可撓性を有するシート材料の第 1 または近位および第 2 または遠位 (Distal) 側壁、およびその縦方向に下方に延び、その縦方向に対して直角に延びるドレイン開口部で終了する細長いドレイン部分を備え、比較的剛性を有する材料、たとえば PET、ナイロン、高密度ポリエチレンまたは低密度ポリエチレンの第 1 または近位および第 2 または遠位可撓性剛性ストリップが該ドレイン開口部に近接しかつそれに沿って延び、前記第 1 および第 2 の側壁の表面にたとえばヒートシールまたは接着することにより取付けられているドレイン性ストーマーパウチであって、該パウチがさらに前記第 1 および第 2 の剛性ストリップを少なくとも 2 回、好ましくは 3 回巻き上げられたコイルを保持するための保持手段を有することを特徴とするドレインストーマーパウチ。

10

【請求項 2】

前記保持手段が第 1 および第 2 の保持ストリップ表面および第 1 および第 2 の保持ストリップ縦端を有するシート材料からの保持ストリップからなり、前記保持ストリップが第 1 の保持ストリップ縦端に沿ってかつ近接して延びる第 1 の保持ストリップ表面の付着ゾーンによって前記ドレイン開口部と実質上平行な関係において前記第 1 のパウチ側壁の外表面に取付けられ、前記保持ストリップ第 2 表面の領域が第 2 のパウチ側壁の外表面上に提供された対応するインターロック手段の第 2 の部分と共働するインターロック手段の第 1 の部分によってカバーされる請求項 1 記載のパウチ。

20

【請求項 3】

手の指によってグリップされるグリップングタブが前記第 2 の保持ストリップ縦端から延びている請求項 2 記載のパウチ。

【請求項 4】

前記第 1 の保持ストリップ縦端から離れて付着ゾーンの端がドレイン開口部から、第 1 および第 2 の剛性ストリップの幅の一番広い幅の実質上倍、好ましくは 3 倍に等しい距離離れていることを特徴とする請求項 2 または 3 記載のパウチ。

【請求項 5】

前記第 1 および第 2 の側壁の間に配置され、前記キャビティを二つのコンパートメントに分離し、前記第 1 および第 2 の剛性ストリップの間に存在し、ドレイン開口部から離れた横方向に延びる底端で、好ましくは第 1 および第 2 の剛性ストリップの一番狭い部分の幅のほぼ半分で、終わる第 3 の可撓性シートからなる中間壁を有する前記請求項いずれかに記載のパウチ。

30

【請求項 6】

該中間層が上端またはその近傍に前記コンパートメントの間の腸内ガスの移行のための開口部を有する請求項 5 記載のパウチ。

【請求項 7】

ドレイン部の二つの側壁がヒートシールもしくは接着の端シームによりその縦端に沿って互いに取付けられ、該剛性ストリップの少なくとも一つが前記端部シームの一つを越えて延びている前項各項いずれかに記載のパウチ。

40

【請求項 8】

該近位剛性ストリップが、その二つの相対向する端部の少なくとも一つが遠位の方向に傾き、および/または前記遠位剛性ストリップが、その二つの相対向する端部の少なくとも一つがその近位方向に傾くように変形されている前項各項いずれかに記載のパウチ。

【請求項 9】

前記傾きを有する端部の全長がドレイン部分の対応する末端シームを越えて延びている請求項 8 記載のパウチ。

【請求項 10】

前記傾き部分が対応する剛性ストリップの長手方向に実質上直線的である請求項 9 記載

50

のパウチ。

【請求項 1 1】

前記スローブ部分が対応する剛性ストリップの長手方向にアーチ状である請求項 9 記載のパウチ。

【請求項 1 2】

前記近位剛性ストリップが前記ドレイン開口部の一端に位置する傾きを持った端部部分または延長部の一つを有し、かつ前記遠位剛性ストリップがドレイン開口部の反対側の末端に位置して傾きを持った端部および延長部の少なくとも一つを有する請求項 7 ~ 1 1 のいずれかに記載のパウチ。

【請求項 1 3】

前記剛性ストリップの少なくとも一つがその長手方向にカーブしていて、その結果対応する側壁に付着する剛性ストリップの表面が剛性ストリップの長手方向に凹状である前項各項目いずれかに記載のパウチ。

【請求項 1 4】

可撓性シート材料のグリップタブが前記ドレイン開口部の近くの領域において、遠位および/または近位側壁または剛性ストリップの外表面に付着する前項各項目いずれかに記載のパウチ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

(技術分野)

本発明は、近位側の壁に存在する開口部を通して人のストーマル排出を受けるキャビティを形成するために互いにシールされた可撓性を有するシート材料の第 1 (または近位) および第 2 (または遠位) の側壁、およびその縦方向に下方に延び、その縦方向に対して直角に延びるドレイン開口部で終了する細長いドレイン部分を備えるドレインストーマーパウチに関する。

【背景技術】

【0002】

(従来の技術)

そのようなオストミーパウチの使用に関して、幾つかの考慮がパウチを使用している人の生活の質にとってかなり重要である。パウチは衣服やまわりを汚す危険がなく容易に排出できなければならない、ドレイン排出後は容易に密閉されなければならない、かつドレイン後および密閉前に容易に洗浄でき、不快臭の危険が実質上なくなることが必要である。

【0003】

密閉、洗浄およびドレイン操作に関して多くの異なる解決策が提案され、実施されてきた。これらの解決策はすべて密閉の確保や老人にとって難しい器用さが必要であったり、洗浄方法が難しかったりなどの欠点を有する。

【0004】

英国特許出願 (GB) 第 2 0 0 0 6 8 3 号 (特許文献 1) には、ドレイン部分の縦方向を横切って延びるドレイン開口部に近接かつ沿ったドレイン部分の底部に遠位側壁の外表面に結合した比較的硬いポリマー材料の棒を有する型のドレインオストミーパウチが開示されている。この棒は縦方向におけるドレイン部分を近位側壁に付着したベルクロの横に伸びるストリップがその遠位壁に付着した横方向に延びるフラップに存在するベルクロの対応するストリップによって係止することができるまで、折り畳むことを促進するのに用いられる。

【0005】

ドレイン開口部およびその周りの領域は、薄い近位壁フィルムが該フィルムと棒との間の長い材料を洗浄したり取り除いたりするため位置を決めたり、バーから分離するのが簡単でない、洗浄が難しい。さらに、ドレイン部分を上方に折り畳み上げる時に、近位壁フィルムの末端が上に移動しそれによって皺になり、そのような皺に沿って起こる漏れ

10

20

30

40

50

で密閉が壊れる危険性が生じる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】英国特許出願（GB）第2000683号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明は、近位側の壁に存在する開口部を通して人のスーマル排出を受けるキャビティを形成するために互いにシールされた可撓性を有するシート材料の第1（または近位）および第2（または遠位）の側壁、およびその縦方向に下方に延び、その縦方向に対して直角に延びるドレイン開口部で終了する細長いドレイン部分を備えるドレインストーマーパウチに関する。

10

【0008】

本発明の一つの目的は、ドレイン開口部およびその周りの領域の洗浄が容易であり、しかも巻き上げ時に完全に密閉されたコイルが近位壁フィルムの皺に沿って漏れ通路の形成の危険がないものを形成するドレインオストミーパウチを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明によれば、この目的はパウチが比較的剛性を有する材料、たとえばPET、ナイロン、高密度ポリエチレンまたは低密度ポリエチレンの第1（または近位）および第2（または遠位）の可撓性剛性ストリップが該ドレイン開口部に近接しかつそれに沿って延び、前記第1および第2の側壁の表面にたとえばヒートシールまたは接着することにより取付けられているドレイン性ストーマーパウチであって、該パウチがさらに前記第1および第2の剛性ストリップを少なくとも2回、好ましくは3回巻き上げられたコイルを保持するための保持手段を有することによって達成される。

20

【発明の効果】

【0010】

これにより、二つの剛性ストリップを互いに圧迫して、その間に存在する物質を押出すことによって容易かつ効果的に洗浄がなされ、その結果ドレイン開口部に近接するストリップの重ね合わせた端部をたとえばティッシュで拭くことによって洗浄することができる。押出すことができないストリップ間の長い材料は薄膜をストリップから分離するのに比べて、分離するのが比較的容易なストリップを分離することによって取り除いてもよい。折り畳み工程において、取り付けられた剛性ストリップによって平坦に保たれるのでドレイン開口部付近での近位フィルムに形成される皺が起こらない。

30

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】本発明のパウチの現在の好ましい態様の近位の模式平面図である。

【図2】本発明のパウチの現在の好ましい態様の遠位側の模式平面図である。

【図3】図1および2におけるA-A線に沿った図1および2のパウチの細長いドレイン部分の拡大模式断面図である。

40

【図4】本発明のパウチの第2の態様の図3と同様の図である。

【図5】図3におけるB-Bラインに沿った拡大模式断面図である。

【図6】本発明のパウチの第3の態様の模式的な端面図であり、図6における端面図は図7におけるA-A線に沿ったものである。

【図7】本発明のパウチの第3の態様の模式的な平面図である。

【図8】本発明のパウチの第4の態様の模式平面図である。

【図9】本発明のパウチの第4の態様の模式端面図であり、図9における端面図は図8におけるA-A線に沿ったものである。

【発明を実施するための形態】

50

【 0 0 1 2 】

本発明のオストミーパウチの実際の好ましい態様では、その保持手段がシート材料の保持ストリップから構成され、それが第 1 および第 2 の保持ストリップ表面および第 1 および第 2 の保持ストリップ縦端を有し、保持ストリップが第 1 の保持ストリップ縦端に沿ってかつ近接する第 1 の保持ストリップ表面の付着ゾーンによってドレイン開口部と実質的に平行な関係において第 1 のパウチ側壁の外表面に取付けられ、保持ストリップ第 2 表面の領域が第 2 のパウチ側壁の外表面に供給された対応するインターロック手段の第 2 の部分と共同して作用するインターロック手段の第 1 の部分によってカバーされる。

【 0 0 1 3 】

これによって、付着ゾーンはコイルがフラップの下にロックされた時にコイルの下に存在し、それによりフラップの下でのコイルのより安定的な保持が提供される。さらに、付着ゾーンとフラップの残存部分との間に形成される折り畳み物によって、フラップは剛性ストリップを回転することによってコイルが形成された時外向きに力がかかる傾向にあるので、コイルをロックするためにフラップをグリップすることが容易である。

【 0 0 1 4 】

現在の好ましい態様では、手の指にてグリップされるためのグリップタブは第 2 の保持ストリップ縦端から突出している。これはドレイン部分がパウチを空にするために逆に巻かれるときに、二つのインターロック手段の取り外しを促進する。

【 0 0 1 5 】

好ましくは、ドレイン開口部とは離れている前記アタッチメントゾーンの端部は、第 1 および第 2 の剛性ストリップの幅の一番広い幅の倍、好ましくは 3 倍に等しい距離だけドレイン開口部から離れている。これによってコイルは付着ゾーンおよびフラップの残りの部分と離れて折り畳み物に近接してしっかりと緊密に保持され、それによりフラップの下にコイルがより安定に保持されることに寄与する。

【 0 0 1 6 】

効果的には、オストミーパウチは第 1 および第 2 の側壁間に配置され、そのキャビティを二つのコンパートメントに分離し、第 1 および第 2 の剛性ストリップ間に存在しかつドレイン開口部から好ましくは第 1 および第 2 の剛性ストリップの一番狭い部分の幅の約半分の距離をあけて横方向に伸びる底端で終了する可撓性シート材料の第 3 の中間壁を有する。

【 0 0 1 7 】

その底端をドレイン部分の末端から距離をおいて置くことにより、底端がクリーニング工程を邪魔せず、その底端を剛性ストリップの間に置いておくことにより、中間層の変換および / または皺が原因で二つのコンパートメント間に漏れが生じることを避ける。

【 0 0 1 8 】

好ましくは、中間壁は上端もしくはその近傍に二つのコンパートメント間の腸内ガスの移動のための開口部を有する。

【 0 0 1 9 】

有利には、ドレイン部分の二つの側壁は加熱シールまたは接着の端部シームによってその長端に沿って互いに付着され、その剛性ストリップの少なくとも一つは前記端シームの一つを越えてもよい。これによって、もし圧力がストリップの端部に長手方向に掛けられたならば、そのシームの一つが支点として屈曲トルクが発生することにより剛性ストリップはドレイン量のコントロールと洗浄のために互いに屈曲して離れることが得られる。

【 0 0 2 0 】

近位剛性ストリップは、その二つの相対する端部の少なくとも一つが遠位方向に傾くように形成してもよく、および / または該遠位剛性ストリップが二つの相対向する端部の少なくとも一つが近位方向に傾くように形成してもよい。剛性ストリップを互いに離れるように曲げる屈曲トルクは圧力が、ストリップの長手方向にその傾斜した部分の端部で明けられたときに形成される。

【 0 0 2 1 】

その傾斜した端部の長さはドレイン部分の対応する末端シームを越えてもよく、かつそのスロープ部分是对应する剛性ストリップの長手方向において実質的に直線状であってもよく、また対応する剛性ストリップの長手方向においてアーキ状を有してもよい。

【0022】

好ましくは、前記近位剛性ストリップはドレイン開口部の少なくとも一端に位置する傾斜を持った端部または延長部の少なくとも一つを有し、かつ前記遠位剛性ストリップをドレイン開口部の反対端に傾斜をもった端部または延長部の少なくとも一つ有してもよい。これによって、剛性ストリップの実質上対照的な互いに離れていく屈曲がその長手方向に圧力が掛けられた時に起こる。

【0023】

有利には、剛性ストリップの少なくとも一つがその長手方向でカーブしていて、対応する側壁に付着する剛性ストリップの表面が剛性ストリップの長手方向で凹状を有していてもよい。これによって、その末端に長手方向に掛けられた圧力に基づいて剛性ストリップが互いに離れる本質的な傾向がストリップに形成される。

【0024】

有利には、可撓性シート材料の保持（グリップ）タブを前記ドレイン開口部の近くの領域に遠位および／または近位側壁または剛性ストリップの外表面に取り付けてもよい。これによって、洗浄や曲げるために剛性ストリップを分離する効果的な手段を提供する。

【0025】

以下、本発明を添付の図面を単に例として示した種々の例示に関してさらに詳細に説明する。

【実施例】

【0026】

本発明によるオストミーパウチはワンピースまたはツーピースのオストミーアプライアンスの部分であってよい。

【0027】

図1～3を参照して、本発明によるオストミーパウチの現在の好ましい態様は液体およびガスを不透過な可撓性材料の3枚のシートもしくはフィルムから構成され、身体側、すなわち近位フィルム1、その反対、すなわち遠位フィルム2と、底端4を有しかつパウチを腸内ガス室3aと糞便室3bとに分離する中間フィルム3とからなる。

【0028】

フィルム1および2の下端によって区切られるドレイン開口部（または排出口）5で終了する細長いドレイン部はパウチの主要部分から下方に延びている。

【0029】

比較的剛性で可撓性のプラスチック材料、たとえばPET、ナイロン、HDT EまたはLDTEの近位剛性ストリップ6および遠位剛性ストリップ7をフィルム1、2の底端の外表面にそれぞれ取付け、ドレイン開口部5の全長に沿ってかつ側近に延びる。

【0030】

廃棄口5から中間フィルム3の底端4の距離はほぼストリップ6および7の幅の半分である。皮膚にやさしい接着バリア材料のフェースプレート8をフィルム1に取付ける。フェースプレート8はパウチをオストミーパウチの付着者の開口周囲（peristomal）皮膚表面に公知の方法で取付けるようにする。

【0031】

フェースプレート8およびそのフェースプレート8が取付けられているフィルム1には中心を合わせたストマー受領開口部8aまたは取付時にハサミでカットすることにより拡大しうる中心を合わせたスターター開口部を有しており、それら全て公知である。また、中間フィルム3はその上端部またはその付近に腸内ガスを腸内ガス室3aに糞便室3bから移行させ、同時に糞便物質のそれぞれの室3bから3aへの移行を防止または禁止する米国特許5,690,623に記載の如き開口部8bを有してもよい（この特許の記載をここに導入する）。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 2 】

インターロック手段、たとえばベルクロ（フープまたはループ部分）、ドイツ国 G - バインダー G m b H からのデュオテック（Duotec）（インターロッキングマッシュルーム要素）または公知の繰返し脱着できる接着被膜のストリップ 9 をフィルム 1 に取付ける。

【 0 0 3 3 】

可撓性フィルム材料のフラップ 1 0 を、フラップ 1 0 の端部 1 1 を溶着または接着することによってフィルム 2 に取付ける。対応するインターロック材料、たとえばベルクロ（ループまたはフック部分）、デュオテックまたは前記の繰返し脱着しうる接着被膜のストリップ 1 2 をフラップ 1 0 に取付ける。

【 0 0 3 4 】

フラップ 1 0 は図 1、図 2 および図 3 において異なる位置に示されているが、図 3 に示されているフラップ 1 0 の位置は図 2 および図 3 に示されたフラップ 1 0 の位置に比べて方向 R 1 に回転しており、図 2 および図 3 の場合フラップ 1 0 はフィルム 2 に近接、すなわち、方向 R 2 に可能な限り回転している。フラップ 1 0 は使用者の指によってつかむためにグリッピングタブ 1 3 を有している。

【 0 0 3 5 】

使用時には、パウチの廃棄部分を、ドレイン開口部 5 を通して空にした後、以下の方法で閉じる：

【 0 0 3 6 】

ストリップ 6 および 7 は、ストリップ 6 および 7 の間の領域から残存する物質を搾り出すように圧迫される。もしストリップ 6 および 7 の間の物質が押出されなかったならば、ストリップはストリップを引いて、または曲げて開口し、除去すべき物質にアクセスできるようにする。廃棄口 5 を構成するストリップ 6 および 7 の端部はティッシュできれいに拭き取る。

【 0 0 3 7 】

その後、ストリップ 6 および 7 を、ストリップ 7 がフィルム 2 の領域 a に近接するまで矢印 R 3 の方向に時計周りに回転させる。その後、ストリップ 6 および 7 を、ストリップ 6 がフィルム 2 の領域 b に近接するまでもう一回時計周りに回転する。

【 0 0 3 8 】

最後に、ストリップ 6 および 7 を最後にもう一回時計回りに回転して、ストリップ 6、7 および 9 並びに関連するフィルム 1、2 および 3 の部分で形成されるコイルがフィルム 2 の領域 c に接近し、ベルクロ等のストリップ 9 が、対応するベルクロ等のストリップ 1 2 がフラップ 1 0 を方向 R 1 に回転することによって係合して得るように位置し、2 つのベルクロストリップ 9 および 1 2 が互いに近接および係止して、前記コイルを放出部分の最終の閉じた位置に保持する。

【 0 0 3 9 】

この閉じたコイル位置において、コイルの上端が好ましくは部分 1 1 およびフラップ 1 0 の残りとの間で形成される角度にぴったりと緊密にフラップし、その結果それによって圧力がコイルと部分 1 1 に生じてそれが密閉の安定性に貢献する。ストリップ 6 および 7 の剛性はまた密閉の安定にとっても重要である。

【 0 0 4 0 】

部分 1 1 とフラップ 1 0 の残りとの間での角度および囲いはさらに、フラップ 1 0 がそのリラックスした状態でフィルム 2 に近づかないでオープンな位置にいる傾向があり、それが放出部分を巻き戻すときに容易に保持する利点を提供する。

【 0 0 4 1 】

パウチをドレインするときには、フラップ 1 0 をタブ 1 3 でつかみ、引張ると、ストリップ 9 および 1 2 が離れて、コイルがストリップ 6 および 7 が三回反時計周り方向に回転することによって巻き戻される。

【 0 0 4 2 】

ストリップ 6 および 7 はまたストリップ 6、7 の端部の矢印 R 4 の方向に大きくまたは

10

20

30

40

50

少し力を入れて圧迫することによって、それらはお互いに離れたり近づいたりして、開口部 5 を開口または閉口することによって、パウチの廃棄の割合をコントロールしてもよい。

【 0 0 4 3 】

この機能は添付図の図 5 に強制的に記載された方法においてストリップ 6 および 7 が変化することにより促進される。図 5 は開放状態でのストリップ 6、7 を通る長手方向の断面図を示し、ストリップが反屈曲を形成し、指で方向 R 4 に圧力をかけることによって開口部 5 が開放することを促進する。

【 0 0 4 4 】

ドレイン部分の緊密かつ正確な巻き上げおよび折り畳みを促進するために、ドレイン部分を図 4 に示すような形態にして、比較的剛性を有し可撓性のプラスチック材料から形成された別のストリップ 1 4 をフィルム 1 の領域 a に接着しそれをほぼ覆うようにする。その場合ベルクロストリップ 9 は図 3 のものよりも広く、フィルム 1 の領域 b をほぼカバーするようにする。これによって、放出部分の正確かつ緊密な折り畳みが促進され、フラップ 1 0 の元でのより高い閉鎖が保証される。ストリップ 1 4 の厚さはストリップ 6、7 のそれよりも薄くてもよい。

【 0 0 4 5 】

さらに放出部分の正確かつ緊密な巻き上げを促進するために、別のストリップをフィルム 1 に接着し、その領域 c をほぼカバーしてもよい。

【 0 0 4 6 】

中間フィルム 3 の底端 4 および放出開口部 5 との間の距離は、それによってクリーニングのために三つのフィルムを容易に分離する利点を有する。

【 0 0 4 7 】

さらに、ストリップ 6 および 7 の間の端部 4 を設けることにより、フィルム 3 が皺を生じずにフラットに保持され、フィルム 1 および 2 と同じ回数折り畳まれても、ドレイン部分の巻き上げられた閉鎖部分で中間フィルム 3 の下の腸内ガスチャンバー 3 a と糞便室 3 b との間で漏れる危険性が無いことを保証する。

【 0 0 4 8 】

図 4 を参照して、二つのグリッピングタブ 1 5 および 1 6 が点線で示されており、タブ 1 5 はフィルム 1 に接着もしくはヒートシールされ、タブ 1 6 もストリップ 7 に接着もしくはヒートシールされている。時としてパウチをドレインするための開口部 5 を開口するためにストリップ 6 および 7 を分離することが難しくなる。何故ならば、互いに重ねあわせた二つのガラスプレートの接着に似たようなストリップ間の減圧効果が、特にドレイン開口部領域が湿潤である場合に、生じることがあるからである。そのような場合、タブ 1 5 および 1 6 をストリップ 6 および 7 を引っ張って離れさすように用いることができる。タブ 1 5 および 1 6 は両方ストリップ 6 および 7 に各々付着してもよく、またフィルム 1 および 2 に各々付着してもよい。

【 0 0 4 9 】

図 6 および 7 を見ると、図 1 ~ 4 におけるストリップ 6 および 7 と同様近位ストリップ 2 0 および遠位ストリップ 2 1 がフィルム 1 および 2 各々接着されている。各ストリップ 2 0 および 2 1 の一端はドレイン部分の長端シーム 2 2 および 2 3 を各々越えて、突出端部 2 4、2 5 を形成し、それは各々遠位および近位方向に角度 α で角度を有している。

【 0 0 5 0 】

端部 2 4 および 2 5 の反対側のストリップ 2 0 および 2 1 の端部はそれぞれ側端シーム 2 2 および 2 3 上もしくは近接して設けられている。角度を持った部分 2 4 および 2 5 のスタートは、前記シーム 2 2 および 2 3 からそれぞれ d 1 の距離を有して存在し、角度を持った部分 2 4 および 2 5 の端部はそれぞれのシーム 2 2 および 2 3 から距離 d 2 を有している。

【 0 0 5 1 】

端部 2 4 および 2 5 の末端に方向 R 4 に指で圧力を加えるとき、その部分は図 6 中の点

10

20

30

40

50

線で示された 2 4 a および 2 5 a の位置に変形し、末端シーム 2 2 および 2 3 によって構成される支点もしくは軸ポイントの回りに生じるトルクがストリップ 2 0 および 2 1 を 2 0 a および 2 1 a に図 6 の破線で示した位置に開く。

【 0 0 5 2 】

上記距離 d_1 は端部 2 4 および 2 5 がストリップ 2 1 および 2 0 の端部に近接することによって邪魔されることなく曲がることを可能にする。

【 0 0 5 3 】

距離 d_2 が大きくなればなるほど、端部の末端上に R 4 の方向に掛けられる所定の力によってストリップ 2 0 および 2 1 にかかる。

【 0 0 5 4 】

実験は、角度 α が小さくあるいは 0 に等しくてもよいことを示す。何故ならば、そのような圧力を方向 R 4 に与えるとき、ストリップ 2 0 および 2 1 が互いに対する長手方向への変異および端シーム 2 2 および 2 3 の結果的な変形は端部 2 4 および 2 5 を斜めに傾けて、0 に等しい α の値でも所望の方向に曲げるからである。 α が少しマイナスの値であっても、正しい方向に曲げるトルクが、ストリップに関してシームの実際の幾何学的変形に基づいて圧力をかけることによって、得られる。しかしながら、確かに正の α の値で角度を有することが、正しい方向の変形トルクを、比較的高い製造誤差でさえ、達成することが可能である。

【 0 0 5 5 】

角度を持った末端部分 2 4、2 5 は直線的に表わされているが、それらは前記圧力下に所望の方向に曲げる傾向を保持し、ストリップ 2 0 および 2 1 を曲げる所望のトルクが生じるのであるかぎり、カーブしていてもよい。

【 0 0 5 6 】

端シーム 2 2、2 3 およびそれによるドレイン部分の端部はお互いに実質上平行であるように延びており、その結果端部 2 4、2 5 は前記巻き上げ閉鎖操作を邪魔しない。端シームはストリップ 2 4、2 5 から互いに向かって少しテーパを有し、さらにそのような邪魔が起こらないようにしてもよい。

【 0 0 5 7 】

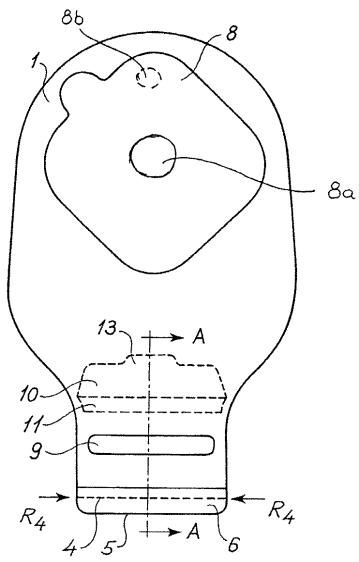
図 8 および 9 を参照して、図 6 および 7 における剛性ストリップ 2 0 および 2 1 と同様、剛性ストリップ 3 0 および 3 1 は角度を持ち、丸くした端部 3 2、3 3 および 3 4、3 5 を有する。方向 R 4 に丸い端部上に指で掛けられた圧力は丸いエッジシーム 2 2 および 2 3 にトルクを形成し、図 6 の破線で示したようにストリップ 2 0 a および 2 1 a の位置と同様の方法で互いから離れるように、ストリップ 3 0 および 3 1 を曲げる。

10

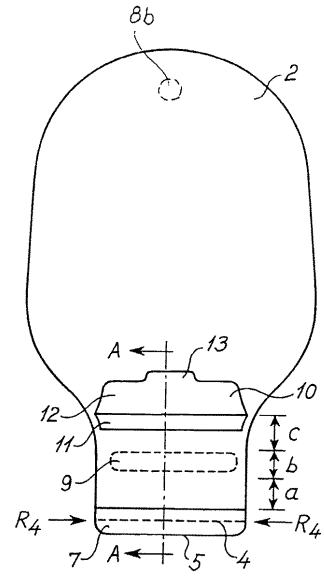
20

30

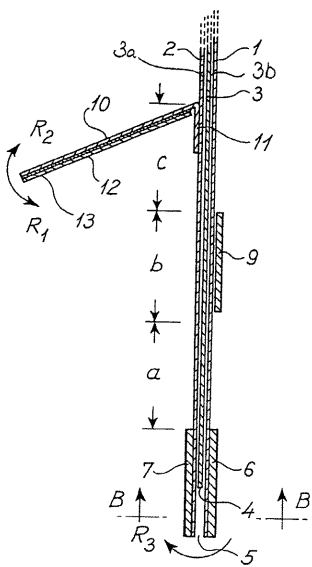
【図 1】



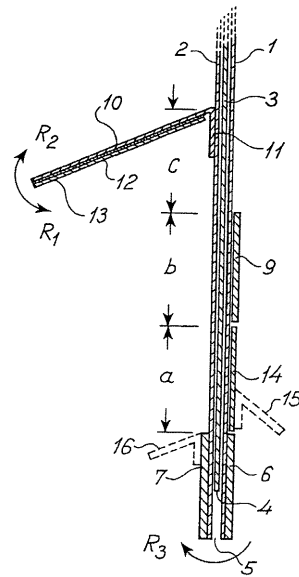
【図 2】



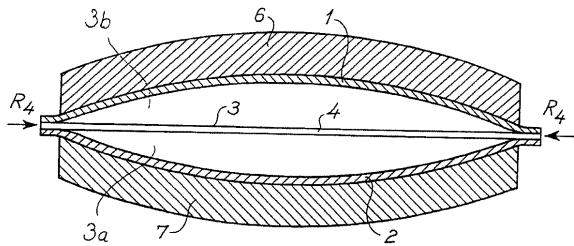
【図 3】



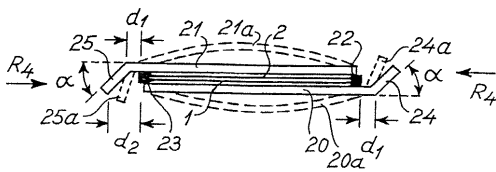
【図 4】



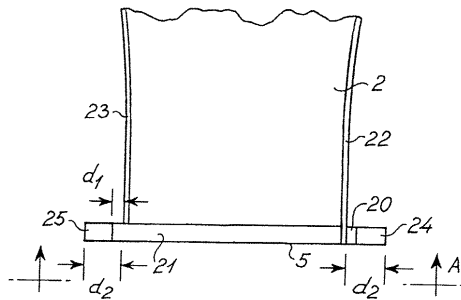
【図 5】



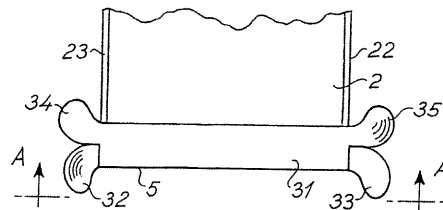
【図 6】



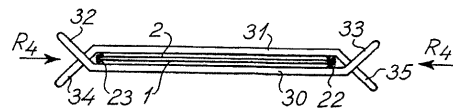
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【手続補正書】

【提出日】平成22年1月12日(2010.1.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の側壁 (1) と第 2 の側壁 (2) とを含むドレインオストミーパウチであって、第 1 の側壁 (1) および第 2 の側壁 (2) は、それぞれ、液体も気体も通さないフィルムから形成され、該 2 枚のフィルムを互いにシールして、i) キャビティと、i i) 細長いドレイン部分とを規定し、

i) 該キャビティは、該 2 枚のフィルムから形成されるものであり、該キャビティは、第 1 の側壁 (1) の開口部 (8 a) を通して、ヒトのストーマからの排出を受けるためにあり、

i i) 該細長いドレイン部分は、該 2 枚のフィルムから形成されるものであり、該キャビティと連通し、かつ、該キャビティから、当該パウチの縦方向の下方に延び、該細長いドレイン部分は、ドレイン開口部 (5) で終了し、該ドレイン開口部 (5) は、該 2 枚のフィルムの両下端で規定されるものであり、なおかつ、該ドレイン開口部 (5) は、当該パウチの縦方向に対して、垂直に延びるものであり、

さらに、当該パウチは、第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) と、第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) とを備え、該ストリップ (6) および (7) は、それぞれ、比較的剛性を有する材料から形成され、該ドレイン開口部 (5) に近接しかつそれに沿って延び、なおかつ、第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) は、該ドレイン開口部 (5) の第 1 の側壁

(1) のフィルム外表面に外側から取り付けられ、第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) は、該ドレイン開口部 (5) の第 2 の側壁 (2) のフィルム外表面に外側から取り付けられたものであり、

第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) および第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) は、互いに離れて湾曲することができ、該 2 枚のフィルムの両下端で規定されるドレイン開口部 (5) を開けたり閉めたりすることによって、当該パウチの廃棄の割合を調節することができ、第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) および第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) が互いに離れて湾曲すると、該ドレイン開口部の第 1 の側壁 (1) のフィルムおよび第 2 の側壁 (2) のフィルムが離れて開き、該ドレイン開口部が開くものであり、

当該パウチは、さらに、可撓性材料のフラップ (10) を備え、該フラップ (10) は端部 (11) を有し、該端部 (11) は、第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) および第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) から間隔を空けて、該側壁の一方に取り付けられ、さらに、該可撓性材料のフラップ (10) は、該フラップ (10) の一部にインターロック手段として第 1 の保持ストリップを有し、該フラップ (10) は、該フラップ (10) の該端部 (11) を除いた部分と該端部 (11) とが形成する角を中心として、該側壁に対して、回転することができ、

当該パウチは、さらに、第 2 の保持ストリップを対応するインターロック手段として備え、

第 2 の保持ストリップは、該側壁の他方に取り付けられたものであり、第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) または第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) と、該可撓性材料のフラップ (10) との間であって、

i) 第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) および第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) を少なくとも 2 回巻き上げて、

i i) 第 2 の保持ストリップとともに、コイルとして、保持するためにあり、

該コイルは、該フラップ (10) の該端部 (11) を除いた部分と、該端部 (11) とが形成する角の中に、ぴったりと緊密な状態で収まり、インターロック手段である第 1 の保持ストリップと第 2 の保持ストリップとが係合する、
ドレインオストミーパウチ。

【請求項 2】

前記可撓性材料のフラップ (10) の端部 (11) が、付着ゾーンによって、前記ドレイン開口部 (5) と実質上平行な関係で前記側壁の一方に取り付けられ、

第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) および第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) と、第 1 の保持ストリップおよび第 2 の保持ストリップとが、それぞれ、該ドレイン開口部 (5) と実質上平行な関係で、前記側壁に取り付けられている、

請求項 1 に記載のパウチ。

【請求項 3】

手の指でグリップするグリップングタブ (13) が前記可撓性材料のフラップ (10) から延びている、請求項 2 に記載のパウチ。

【請求項 4】

前記フラップ (10) の前記端部 (11) を除いた部分と該端部 (11) とが形成する角が、前記開口部 (5) から離れて配置され、その距離が、第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) または第 2 の可撓性の剛性ストリップ (7) の最大幅の実質上倍である、請求項 2 または 3 に記載のパウチ。

【請求項 5】

第 1 の側壁 (1) を形成するフィルムと第 2 の側壁 (2) を形成するフィルムとの間に配置されたフィルム (3) をさらに備え、該フィルム (3) は、前記キャビティを 2 つのコンパートメント (3 a) と (3 b) とに分け、該フィルム (3) は、横方向に延びる底端 (4) で終了し、該底端 (4) は、第 1 の側壁 (1) を形成するフィルムの第 1 の可撓性の剛性ストリップ (6) が取り付けられた部分と、第 2 の側壁 (2) を形成するフィル

ムの第2の可撓性の剛性ストリップ(7)が取り付けられた部分との間に位置し、なおかつ、該底端(4)は、該ドレイン開口部(5)から離れて配置されている、請求項1に記載のパウチ。

【請求項6】

前記キャビティを2つのコンパートメント(3a)と(3b)とに分ける前記フィルム(3)が、その上端またはその近傍に、開口部(8b)を備え、該開口部(8b)は、該コンパートメント(3a)と(3b)との間で腸内ガスを通過させるためにある、請求項5に記載のパウチ。

【請求項7】

前記ドレイン部分の前記側壁を形成する2枚のフィルムが、その縦端に沿って、互いに、少なくとも1つのヒートシールまたは接着による端部シーム(22)および(23)によって取り付けられ、第1の可撓性の剛性ストリップ(6)および第2の可撓性の剛性ストリップ(7)の少なくとも一方が、該端部シーム(22)および(23)の一方を超えて延びる端部(24)および/または(25)を有する、請求項1に記載のパウチ。

【請求項8】

第1の側壁(1)および第2の側壁(2)の少なくとも一方の外表面に、あるいは、第1の可撓性の剛性ストリップ(6)および第2の可撓性の剛性ストリップ(7)の少なくとも一方の外表面に、可撓性シート材料のグリッピングタブ(15)および/または(16)を該ドレイン開口部(5)の近くの領域に取り付ける、請求項1に記載のパウチ。

【請求項9】

前記第2の保持ストリップと、対応する第1の可撓性の剛性ストリップ(6)または第2の可撓性の剛性ストリップ(7)との間に配置されたさらなる剛性ストリップを備え、第1の可撓性の剛性ストリップ(6)および第2の可撓性の剛性ストリップ(7)と、該さらなる剛性ストリップと、該第2の保持ストリップとを含むコイルを形成する、請求項1に記載のパウチ。

フロントページの続き

- (72)発明者 ティーネ・ヴィレフランツェ
デンマーク、デーコー - 2 7 3 0 ヘルレウ、トヴァースキフテット 3 6 ペ番
- (72)発明者 イェルゲン・フォルピエアウ - ラーセン
デンマーク、デーコー - 3 3 2 0 スケヴィング、マルケベクヴァイ 2 番
- (72)発明者 クヌズ・ヴィンター
デンマーク、デーコー - 3 0 7 0 スネッカーステン、ステヴネン 7 2 番
- F ターム(参考) 4C098 AA09 CC18 DD25 DD28